

★ 特集：耐震・耐久性に優れたモルタル外壁で木造住宅を守る ★

インタビュー

# 価格に見合うモルタル外壁の魅力を伝える

日本住宅モルタル外壁協議会 企画委員長 **梅田 泰成** 氏に聞く

ラスモルタル壁倍率の告示改正・大臣認定取得に向けて日左連が動くなど、耐震性と耐久性に優れたラスモルタル外壁の再評価がなされている。一方で、正しい施工の啓蒙や消費者にモルタル外壁をPRすることも車の両輪のように重要な取り組みである。

本稿では、日本住宅モルタル外壁協議会の企画委員長である梅田泰成氏に業界の現状と課題、協議会の取り組みと今後の展望について話を伺った。 (編集部)



▲「モルタル外壁を耐力要素として扱う利点のほかに燃えにくいことやシームレス構造であることも利点です」と語る梅田さん

## 現場の減少が技術継承の問題に

——モルタル外壁の現状についていかがですか

工務店に話を伺うと「モルタル外壁が良いのは分かっているけれど、値段が高いのでお客様に勧めにくい」と言われます。価格が高くて耐震性が上がるというデータをお客様に示すことができれば、薦められる。では、そのようなデータが無いのかというと、国総研などでの実験結果があります。それを工務店や施工店、お客様に伝えられていない。

耐震性については JASS15 に示された仕様で則って施工をすれば問題はありません。そして国総研との共同研究でも実験結果が示されているのですが、これを一般の方々が見て理解するのは難しい。ですから、協議会の方でフォローできないか、誰でも分かるように解説されたものが、たとえば技術委員会で作れないだろうか。これは協議会の今後の課題でもあります。

——資材価格の高騰の影響はいかがでしょう

昨今の建築資材の高騰は致し方ありませんが、加えて2024年問題に象徴されるように輸送コストが現着価格を押し上げています。これは建設業界全体に影響を及ぼしているわけですが、我々の業界でむしろ深刻なのは、職方が見つからな

いことです。手間賃を上げて職方が集まらない。そして高い賃金を出したからといって、腕のよい、技能レベルの高い職方が集まるとは限りません。モルタル外壁工事が減少してしまい、技術の継承が難しくなっています。また、昔ながらの施工方法は知っているけれど、現在の構法や仕様にアップデートされていない職方もいます。たとえば昔の砂モルタルに比べ、軽量モルタルは付着力があって塗りつけやすい。そのため下地の目粗しをしなくても良いと思いがちですが、それは条件を満たした場合であって、施工してから時間が経てば、吸水調整剤など下処理は必要です。経験のある職方にとっては当たり前の作業でも、そうした基本的な知識だけでなく、材料や工法の進歩についていけない職方もいます。

——現場の減少が技術継承に影響も

そうですね。ラスやステープル、モルタル、防水紙といった材料だけでなく、モルタル構法の仕様も大きく変わってきています。現場が少ないために工事のたびに掻い摘んで技術を修得しているのではないのでしょうか。また、指導されながら作業をしていた職方も、いつの間にか指導する立場になっています。